

# あしや わがまち トピックス



環境フリーマーケットの様子

## 環境フリーマーケット 出店者募集・開催案内

フリーマーケットに参加し、ごみの減量や資源保護に対する関心を高めましょう。家庭に眠る不用品や手作り品を有効活用できます。

- 日時 5月29日(日)午前10時～午後3時(雨天中止)  
※雨天中止の場合は、商工会ホームページで当日午前8時ごろに発表
- 会場 JR芦屋駅北側ペDESTリアンデッキ
- 出店料 1,000円 ■出店数 27店
- 申し込み 往復はがき(1店舗1枚)の往信面に住所・氏名・電話・ファクス・品物名を明記し、返信宛名面にご自身の宛先を記入し5月10日(火)必着で、芦屋市商工会(〒659-0065 公光町4-28)へ※飲食物の販売はできません。出店者は市内在住者に限りです。  
※申し込みに関する問い合わせは、芦屋市商工会(☎23-2071)へ。
- 区画の抽選会 5月17日(火)午後2時から。返信はがきでご案内します。  
※遅刻および欠席の場合は失格となります。※なるべく大勢のかたに参加していただくため、1世帯・1店舗にご協力ください。
- 問い合わせ 環境施設課 ☎32-5391

## 日本語ボランティア指導者養成講座



日本語ボランティア養成講座の様子

- 日時 5月14日～6月25日  
午前10時～正午(土・全7回)
- 対象 ①18歳以上の初心者  
②修了後日本語ボランティアとして活動が可能なかた  
③5回以上出席できるかた
- 定員 20人(最少催行人数・10人)
- 費用 3,000円

- 申し込み 5月3日(火)までに指定の申込用紙に記入し下記へ  
※応募者多数の場合は抽選
- 会場&問い合わせ  
潮芦屋交流センター ☎25-0511/☎25-0512(〒659-0035 海洋町7-1)

## 芦屋病院・人間ドックについて

日本は世界に冠たる長寿国となりました。平均寿命が延び、高齢のかたが増えました。しかし、単に長生きするのではなく、健康に長生きしたいものです。体調が悪くなつて病院を受診する場合は、その症状やその症状の原因となる病気に対し、診療が行われます。しかし、病気があつても症状がなかなか現れないことは多く見受けられます。そのような病気があるのに症状が現れない段階で病気を発見するために、人間ドックがあります。

例えば、糖尿病は何らかの症状が現れるころには、かなり病状が進んでいることが多く、糖尿病により動脈硬化が進み、心筋梗塞・脳梗塞などを起こしたり、糖尿病による腎障害や神経障害などさまざまな合併症を引き起こします。同じように高血圧や高脂血症も、知らないうちに心臓・血管障害を起こします。がんも、ある程度病状が進むまでは症状には現れません。がんは早期発見・早期治療が大切であるのに、症状に現れたときは進行がんとなつていくことが多いのです。全身のどこかにできたがんを早期発見するのは簡単なことではありません。しかし、人間ドックによって症状に現れない異常が見つかり、受診した結果、がんが早期に見つかるということはよくあることです。がんを単なる既往症とするためにも、人間ドック受診をお勧めします。

一方、せっかく人間ドックを受けたのに、「要受診」と指摘された項目を受診せずに放置されたり、「要経過観察」とされた項目を放置されたりするのは、せっかく健康に長生きできるチャンスを自ら放棄されていることになり、かかりつけ医の先生にご相談いただくか、当院を受診してください。人間ドック受診の際に異常が見つかり、当院で診療を行う場合には、各診療科の予約をその場で取ることも可能です。健康に長生きするために、ぜひ当院人間ドックをご活用ください。



芦屋病院人間ドックセンター長 松梨達郎

問い合わせ 芦屋病院 ☎31-2156

## 芦屋病院長に西浦哲雄医師が就任

平成28年4月1日より西浦哲雄病院長が就任しました。  
＜プロフィール＞

西浦 哲雄(にしうら てつお)  
【専門】血液内科・腫瘍内科・緩和医療  
国立病院機構呉医療センター内科医長、兵庫県立西宮病院内科部長を経て、平成22年4月1日より当院へ赴任し、診療局長、副病院長を歴任。



問い合わせ 芦屋病院総務課 ☎31-2156

## 今から約1000～550年前(平安時代～室町時代)

### 東播磨で作られた焼き物と芦屋

#### 東播系須恵器

須恵器は、古墳時代中期(5世紀)から室町時代終わりごろ(15世紀)まで生産された土器です。窯で焼かれ、硬質で灰色をしています。奈良時代には播磨国(今の兵庫県南西部)の特産品や物納の税として都である平城京に運ばれていたことが知られています。

須恵器の生産の歴史をみると、平安時代後期(11世紀)から室町時代終わりごろ(15世紀)には、東播磨地域現在の三木市や神戸市西区・明石市西部付近が須恵器の一大生産地となっていました。この地域の窯で焼かれた須恵器は、船で西日本各地はもとより、幕府のあった鎌倉にも運ばれていました。この古代末から中世に東播磨で生産された須恵器は、「東播系須恵器」と呼ばれています。

芦屋市内でも、この東播系須恵器がたくさん出土しています。が、ここでは特徴的な二つの出土例を紹介します。

月若遺跡(月若町)で発掘されたカマドと推定される遺構からは、平安時代後期(11世紀後半)の東播系須恵器の碗と鉢が出土しました。この鉢は生産が少ない時期のもので、全国的にみても出土例は多くありません。

もう一つは、寺田遺跡(西芦屋町)で発掘された直径30センチメートル、深さ30センチメートルの穴から出土したものです。この穴の中には、中国の華南地方産の黄釉鉄絵陶器盤(市指定文化財)が手のひらサイズに叩き割られて置かれていて、その上に同じように割られた東播系須恵器の鉢の破片が置かれていました。この鉢は平安時代末～鎌倉時代初頭(12世紀後半～13世紀初頭)に製作されたもので、日宋貿易によって中国からもたらされた黄釉鉄絵陶器盤と東播磨産の須恵器がいっしょに納められたこの穴は、地鎮などに関わるものであったと考えられています。

この他にも東播系須恵器は、市内の遺跡から数多く出土しており、平安時代末から室町時代末ごろ、芦屋の地で日常的に使われていた食器であったことがわかります。

寺田遺跡(三条南町)出土の東播系須恵器の鉢



芦屋タイムトラベル 問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2115